

## 平成 25 年度 第 1 回 学校協議会議事録

日時 平成 25 年 6 月 25 日 (火)  
14:20 ~ 15:10 授業見学  
15:20 ~ 16:30 協議

場所 茨木工科高校 会議室

### 出席者

委員長 1 名 委員 2 名 校長 教頭 事務部長 分掌長 1 名 系長 3 名 事務局員 2 名

### 協議

#### 1. 開会挨拶 (校長)

平成 25 年度も始まり、2 ヶ月半が経過し、早くも来週から第 2 回考査が始まろうとしている。今年度は、喫煙、喧嘩等、1 年生を中心に増加傾向にあり、生活指導部、1 年担任団を中心に奮闘していただいている。

さて、ご存じの方もおられると思うが、来年度から府立の工科高校 9 校が人材育成の重点化を図るため、3 つのタイプに分かれることになった。本校はその一つの高大連携重点型校に淀川工科、今宮工科高校とともに指定された。ほかに、実践的スキル養成重点型、地域産業連携重点型がある。高大連携重点型に指定されたことに伴い、工学系大学進学に向けた新しい専科を設置することが、21 日の教育委員会会議で正式に認められた。名称は工学系大学進学専科(仮称)で、調整後、仮称がとれる見込みである。資料の 8 ページにその概要を掲載しているので、参照いただきたい。

大学進学専科は、前期入学者選抜で 40 名单独募集することになっている。従って、従来の総合募集は、1 クラス減ることになる。新専科設置に伴い、機械系機械制御専科を廃止する。大学進学専科では、数学、物理・化学、英語の授業を充実させ、高大連携を推進し、将来の高度技術者の育成をめざすということを目指している。今後、具体的なカリキュラム編成作業、大学への連携の働きかけなどを府教育委員会と協力しながら進めていく予定である。

本日は、授業見学もしていただいたので、協議の時間は少なくなってしまうが、授業見学の感想も含めて、忌憚のないご意見をいただきたいと思う。

どうぞよろしくお願いいたします。

#### 2. 委員長挨拶

25 年度の計画を協議するということが責任重大である。すでに学校長のほうから新しい専科を設置するという話があり、ますます発展されると感じている。後で今日の授業見学の意見感想をいただくということであるが先生方は大変だと感じている。この協議会は学校の経営の計画、評価に関する事項を行う委員会である。その責務を果たすことは大きなことだと思っている。

#### 3. 出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介。

#### 4. 授業見学について意見・感想交換

(委員)一番感じたことは先生方が大変である。私は高校を卒業してから時間がたつが、変わったという気がする。普通科を卒業したので工業科の中身はわからないが、教える大変さがわかった。私が高校生の時はもっと落ち着いていたと思う。今の高校生は社会人と学生の違いがない。高校生のまま社会に出ている。昔は高校生と社会人の差が大きかったと感じている。高校生は教えてもらっている。社会人は自分の能力を出して給料をもらっている。その差が存在する。がんばったらいろいろな職業に就くことができる。それが世の中だと思う。今の高校生たちはそういう気持ちがないのかと思った。

(教頭)本校の生徒たちは3年後には入社している。本校での3年間の成長は大きい。ご覧になってお分かりいただけたと思うが1年生と3年生は違う。

(委員)3年生になったら世間に出ないといけないという気持ちがある。成長するものだと感じた。

(委員)先生方の苦勞がひしひしと伝わってきた。

(委員長)普通科の生徒と違うのは実習実験だと感じた。実験は真剣にやっていた。やはり百聞は一見に如かず、百見は一考に如かず。物を触るということは工科高校の強みである。生き残る力は実践の力だと考える。普通科よりも強いのではないかと思う。

(委員)自分の中で力になっていくのだと思う。

(教頭)生徒たちは普通科の授業と専門の授業とでは顔つきが違う。普通科の授業はエアコン付いているので涼しいはずなのに「暑い、暑い。」と言って集中しない。実習場はエアコンが入っておらず、暑いはずなのに、文句を言わず作業を行う。顔つきが違う。

(委員長)生徒と先生の距離というのが難しいのではないか。どのようにして間をとらえられているのか。

(教頭)授業をされていた方で意見はないか。

(教務主任)間の取り方といていたが、生徒は対学校不信、対教師不信の生徒も在籍しており、先生としての立場で上から言ってしまうと、非常に反発する。生意気な口をきこうが同じ目線で話を聞いてやると警戒心を解いて心を開いてくれる。最初は人間関係づくりから始めることに気をつけている。人間関係もできていなければ指導も何も入らない。

(委員長)人間関係を作るのは短時間では難しい。特に1年の時は難しいのでは。やはり信頼関係は大切であると感じる。

(教頭)他の先生から授業などで困っていることなどはないか。

(機械系長)本校でも上からきつく指導する先生もいるがやはり生徒とトラブルを起こすことが多い。罵り合いになることもある。そのような先生と生徒の間を取り持っていないといけないときもある。生徒の言い分を聞くことができないとうまく行かない。

(委員)どこまでみて、許すのか。

(機械系長)悪いことを怒らないということではなく、クレームみたいに聞こえるが、生徒からの意見を聞いてやるということである。廊下に出てきた生徒に「何出てきているんだ。早く戻れ。」と言ったら、生徒からは「何も聞かず、知らんのに何言っとんねん。」となる。

(委員)「なんで出てきたんや。」と聞かないといけないのか。「こうしたらこうなるよとか。」そのようなことから教えてやらないといけない現状があるのか。

(機械系長)そう考えている。授業中は教室に入っているのが当たり前と考え、普通の高校の在り方と違い指導するとトラブル、罵り合いになる。1年生で教えてもらいたいという気持ちを持っていない生徒がいる。

(委員)先生と生徒という立場はないのか。それを構築するまでに時間がかかるのか。

(教務主任)数年前までは工業を学びたいという気持ちで入ってくる生徒が多かったので学びたいという気持ちと、教師の教えるということと一致していた。今は不本意入学または中学校の先生がここに行けということと入学している生徒が存在する。だから学びたいという気持ちもないのに教師が指導する。それで機能していない部分が多い。

(教務主任)先日テレビで放送されていたが、おなか一杯でレストランに入れられ、こちらが無理やり食べさせなければならないというような状態である。

(機械系長)授業見学で1階をまわったということだが、私は3時間目に廊下を巡視する当番をしていた。1年生で完全に教室に入りたくないグループがいた。やはり「どうしたの?」から声をかけた。はっきりと「暇つぶしに来てるんや。ほっといてくれ。」それをなんとか説得して授業に入って行かせるのだが逆にそんな生徒が教室に入ると担当者は迷惑なのかもしれない。7,8人は話をした。

(委員長)そんな生徒とは信頼関係が生まれる。

(機械系長)4月から授業を教えている生徒は顔見知りなので指導を聞く。そのまわりにいる授業で指導していない生徒は始めから食ってかかってくる状態である。

(教頭)生徒が大変という意見、感想以外に何かないか。

(委員)私は普通科だったので工業高校の仕組みがまだよくわからないが、生徒は道具を使って何かを作ることは上手である。

(教頭)実習の先生もいろいろ苦労している。こちらからの一方的な説明であればなかなか理解しない。作業に入れない。実習をやるだけではなくて実習後のレポートを受け取る時の口頭試問などを通じて先生と生徒の人間関係を築き、生徒の話し方の練習もする。1年生から2年生、3年生になるにつれて言葉づかいはだんだん良くなっている。

(委員)1年生は320人で入学しているが、3年生で何人卒業しているのか。

(教頭)220人弱である。

(委員)100人くらいは去っている。家庭の事情とかいろいろあるのか。一番遠くからきている生徒はどのあたりから来ているのか。

(教頭)枚方から自転車で来ている。寝屋川、大阪市内もいる。

(委員長)遠方からの通学は就職活動に役に立つ根性を鍛えることができる。

(教頭)ありがとうございました。話も尽きないが、本校の教育課程について進めていただきたい。

## 5.平成25年度の学校教育活動について協議

### (1)平成25年度の学校経営方針について(校長)

確かな学力の育成、安全で安心で魅力ある学校づくり、自立・自己実現の支援、地域連携・地域貢献の取り組みの推進である。

この4つの目標それぞれについて、今年度、どのように取り組んでいくかを示したものが、裏面である。それぞれについて、今年度、特に重点的に取り組んでいる内容を説明する。

4つの柱の一つ目確かな学力については、ウの学び直し、すなわち学校設定科目「工業入門」を活用して、基礎・基本的な学力の定着とともに学ぶ姿勢を身につけさせることをめざし、中退率改善にもつなげていきたい。

中退率は一昨年度8.6%、昨年度は7.4%と少し減ってはいるが、昼間の府立高校ではかなり高い率である。一応2%削減を目標にしている。

2つ目の安全安心で魅力ある学校づくりでは、(1)ア遅刻削減の取り組みである。平成24年度は25%減を達成したが、さらに20%削減を目標にあげている。遅刻数の削減は規範意識の向上、ひいては、学力の向上、中退率改善につながる近道だと思っている。最重点項目と捉え、取り組んでいく。

3つ目の自立・自己実現の支援と4つ目の地域連携の取り組みの推進は、工業高校である本校の強みであるので、少し詳しく見たい。

自立・自己実現では、(1)キャリア教育・職業体験教育の充実とあるが、本校は3年計画の実践的キャリア教育支援事業の指定校で毎年200万円以上の予算がついている。今年度は、3年目である。アのインターンシップは、参加人数50名を目標にしている。現在、希望者を募っているが、目標達成は困難な状況にある。(2)ア.資格取得や就職試験に向けた全校的な協力体制の推進であるが、これについては、毎年、重点目標にあげている。最終的に就職内定率100%は達成しているが、一次の合格率が工科高校の中では低い方である。大企業の受験率が高いというハンディもあるかも知れないが、一次の合格率を少しでも上げるようねばり強い指導を行う。(3)大学等に接続する教育課程の取り組み、これは具体的な作業がある今年度最大の課題である。PTを中心にして、教育課程をつくりあげ、来年度、工学系大学進学専科の第1期生を無事迎えることが目標となる。(4)校長マネジメント推進事業中期計画推進費における推進校としての小型人工衛星製作への取り組みであるが、昨年度235万円の予算があり、約200万円を執行し、JAXAの出前授業、ハイブリッド・ロケットの打ち上げ等を行った。今年度は、同様の取り組みとともに、アマチュア無線局開設に向けた取り組みを始める予定である。

最後に、4 地域連携・地域貢献活動の取り組みの推進であるが、これも本校の大きな目玉である。昨年度のがんばった学校支援事業で獲得した500万円の予算を使って施設・設備、消耗品の充実を図った。それらを活用して、引き続き取り組みを推進する。

恒例のアルミ製朝礼台は今年3台製作し、茨木市内の小中学校及び新設された摂津支援学校に寄贈する予定である。また、これも恒例であるが、茨木市イルミネーション事業にも参画することが今年も決まった。さらに、関西サイクルセンターの「夢の自転車開発研究事業」にも応募し、取り組みが具体的に始まっている。

盛りだくさんの計画であるが、ベースには、生徒に規範意識を身につけさせ、学校のたたずまいを落ちついたものにすることがある。これをしっかりやりつつ、あげさせていただいた重点目標に取り組んでいきたいと考えている。ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申しあげる。

(委員長)ただ今の計画につきましてご質問、ご意見などないか。

(委員長)この新しい系、専科について機械系は1クラスなくなり、教員配置はどのようにされるのか。

(校長)これは3年計画で行う。学年を追うごとにカリキュラムを変えてく。普通教科が増える傾向になるが具体的な人事計画はできていない。

(委員長)他に何かないか。

(2)平成25年3月卒業生(6期生)進路状況について(教頭)

昨年度の協議会資料と変更はない。特徴的であったもので内定100%は達したが、1次試験での内定率が高いとはいえない。今後も1次内定率の増加に向けて指導していく。具体的には3年生になってからの面接指導だけではなく、基礎学力の定着が必要である。1年生からの学習習慣についての指導、学び直しを計画している。

(委員長)ただ今の報告に関しましてご質問、ご意見はございませんか。

(委員長)この資料の生徒について学び直しは行っていなかったのか。学び直しについて教えていただ

きたい。

(教頭)学び直しは行っていなかった。今年の1年生から行っている。学び直しは学習の内容ではなく、学ぶ姿勢から指導を行っている。座って、何かに取り組む姿勢を指導している。内容は小学校の計算から、中学校の計算となっている。これならできるぞという気持ちを持たせ、難しいものにもゆっくり取り組む気持ちを育てている。

(委員長)その他に進路に対応した指導などはあるのか。

(委員長)新たな系、専科は40名を進学させるということであるがそちらはどうなっているのか。

(校長)新たな進学系、専科では工学系大学に100%進学させることが目標である。

(委員長)就職100%を続けていることは素晴らしいことである。遅くまで就職が決まらない生徒もいるのか。

(教頭)去年の3年生は1月には全員決定した。その前は3月、その前の前は4月までかかった。

(校長)3回、4回落ちる生徒もいる。

(教頭)何回も落ちると人格を否定されているように感じてくる。こちらもしっかり応援している。

### (3) 工学系大学進学専科(仮称)について(校長)

冒頭のごあいさつの中で触れさせていただいたが、時間もないのでご覧ください。めざす学校像や、生徒に育みたい力は今回の重点化に伴い、新しく書き加えている。工業高校をベースに今回新しく専科を設置することになる。教科名はまだ入っていない。7月末ごろには教科名が入っていくことになる。見ていただいたらわかるように工学系大学進学専科の方は2年3年次の専門教科が総合募集に比べ減っている。

(委員長)指定校の見直しを進めるということであるが連携校を絞られていかれるのか。

(校長)大阪府立大学、大阪工業大学との連携を準備している。

(委員長)近畿大学はないのか。

(校長)近畿大学はまだどうするかという段階で、この夏から大阪府立大学、大阪工業大学には働きかける。

(委員長)入学時の広報になる。

(校長)近畿大学は本津先生がおられるので是非応援していただきたい。授業の中でも大学の講座を体験する計画をしている。

(委員長)良い知らせを期待している。

### (4) 平成25年度行事予定(教務主任)

何点か簡単に説明させていただく。

4月8日に始業式・入学式、クラブ入部などを行った。

5月16日から第1回考査があった。本年度から考査の前日に教室の整備をするということで大清掃が入っている。5月15日に大清掃を行った。5月の24日に遠足を行った。昨年までは11月の第3週に実施していたが今年はクラスの親睦を深めるということで時期を変更した。

6月7日に体育祭、体育祭の翌登校日の10日に大清掃をいれる予定だったが11日に避難訓練があり、11日に大清掃を行った。

7月4日から第2回考査、その前日にも大清掃を行う。試験明けの11日には茨木市市民会館にて視聴覚行事を行う。19日に学校集会を行い夏休みとなる。夏休み中にも3年生の登校日として何日か登

校日を設けている。

8月の最後の週には2,3年生の補充授業がある。

9月の1,2週目には3年生の就職指導。放課後面接練習を行う時間をとるために短縮授業としている。

10月4日から前期末考査、その前日にも大清掃を行う。前期末考査明けの11日は創立記念日、これに秋季休業を含め、生徒は6日間の連休となる。17日に後期始業式。24日には前期の成績をまとめた成績会議があり、生徒に通知表を渡す。

11月9日は文化祭、翌登校日11には大清掃を行う。今年度からオープンスクールと名前を変え、16日土曜日に授業を行い、中学生が見に来ることになっている。30日PTA社会見学を行う。

12月6日から第4回考査が始まるが前日には大清掃、考査後は短縮授業となっている。24日まで登校日があり、そのあと冬休みとなる。

1月8日から授業が始まる。28日には2年生が修学旅行、今年度は北海道に行くことになっている。3年生の学年末考査があり、2月4日まで3年生は登校することになる。それ以降、3年生は休みとなる。

2月20日に入学者選抜検査、採点がある。1,2年生は2月27日から学年末考査が始まる。

3月7日に卒業式がある。その後3学年とも休みになり、17日に後期終業式がある。

以上で報告を終わる。

(委員長)ありがとうございます。

(委員長)オープンスクールであるが勤務している大学ではオープンキャンパスを3回行っている。

(校長)形を変えて中学生が見に来ることは他に2回ある。この日はクラブ活動も含めてすべて公開する。あとは、実習体験や学校説明会として合計3回行う。

(委員長)入試の方法が変わるということに関して、中学生に何か対応をされるのか。

(校長)進学専科が単独募集であることは周知する。スケジュール的には少し前倒しになる。

(教頭)その日程に合わせて学校行事も昨年とスケジュールが若干違っている。

#### (5) 質疑および意見交換

(委員)最近女性の生徒が増えているのではないのか。何%位になっているのか。

(教頭)1年生は320名の中で20数名が女子生徒であるので10%はない。

(委員)女子生徒が入学してよかったことと悪かったことを1つずつ教えて欲しい。

(教頭)目的を持って入学してくる女子生徒はよい。目的を持っていない女子生徒は授業中に教室を抜け出したりしている。女子生徒だけではないのだが、人数が少ないので目につく。よいこと、悪いこと、ともに目につきやすい。

(校長)電気工事の実習を見ていただいたときに女子生徒がいたと思う。あの生徒は目的意識を持っている。中学校の時から本校に訪れ、いろいろなことを聞いたうえで入学を決定してきた。

(委員)女子生徒が入学して困っていることはないか。

(校長)最近増えた訳ではなく20名前後の生徒は毎年入っている。今年度何か困っていることはない。

(委員)では、女子生徒が卒業する人数の割合はどうか。

(教頭)目的意識の少ない女子生徒はほとんど進路変更する。しかし、退学率から考えると男子生徒とほとんど変わらない。人数が少ないのでやめると目につく。入学してからは男子女子の区別はほとんどしていない。出席番号も男子生徒の中に入れ、体育も一緒に行っている。困ったことがあるとするなら

ば女子生徒どうしの人間関係で困ることがある。人数が少ないためクラス内で人間関係が崩れると頼れる人がいなくなる。男子生徒であれば他に友人を作ることできるのだが女子生徒は困難である。

( 6 ) 閉会のあいさつ ( 校長 )

時間を超えているので割愛させていただく。

( 7 ) 事務連絡 ( 教頭 )

次回の協議日程であるが、10月の予定でお願いしたい。